

生物介在療法特別実習(二) (2単位)

担当者氏名 浅野房世

◆学習・教育目標

動植物を介在した療法を実践するための技術を修得するため、動物系と植物系の実習を行う。

植物介在療法学では、園芸療法士としての職能を習得するための実習が必要となる。患者を知り、その患者に合う植物と、その植物とどのような関係を持つかが、最も必要とされるスキルである。認知症高齢者、精神疾患、脳梗塞、障害児を対象として、各施設に出向きプログラムの実施をおこなう。また、授業を通して、植物介在療法に必要とされる園芸全般の知識を身につける。(浅野) 動物介在療法学では障害者、高齢者、心理的な困難にある人々の利用する機関等においてそれぞれの支援ニーズを分析して作成した動物活用プログラムを試行し、効果を測定するとともにプログラムの評価を行い継続的な実践の見直し・改善を行う。(林、滝坂)

◆取り扱う領域(キーワードで記載)

リハビリテーション 脳梗塞 作業 植物介在療法
 社会復帰

◆授業の進行等について

	テーマ	内容	授業のねらいまたは準備しておく事項
1	ガイダンス		認知症高齢者は、統合失調症あるいは脳神経系疾患を患う患者についての理解を深めるための意欲を持つこと。
2	認知症高齢者施設について(認知症高齢者施設演習)	認知症高齢者施設についての理解 プログラムの検討	
3	認知症高齢者プログラム	認知症高齢者へのプログラム提供	
4	〃 評価	〃 評価	
5	認知症高齢者 まとめ	校内にて症例発表	
6	精神病院(第6~9週)	精神病院での植物介在療法のガイダンス	
7	精神病院を知る	統合失調症と植物介在療法の適応の実際	
8	精神疾患 プログラム	プログラムの計画	
9	〃 実施	プログラムの実施	
10	脳梗塞を知る	脳梗塞などの脳神経疾患の理解と実際	
11	〃 プログラム検討	〃 プログラムの計画	
12	〃 実施	〃 実施	
13	〃 評価	〃 評価	
14	とりまとめ	大学にて発表	

◆教科書及び資料(授業前に読んでおくべき本・資料)

書名/著者/発行所(発行年)
 精神医学、作業療法、認知症 などに関する書籍

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名/著者/発行所(発行年)
 / / ()

◆評価の方法(レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト)

レポート

◆その他受講上の注意事項